

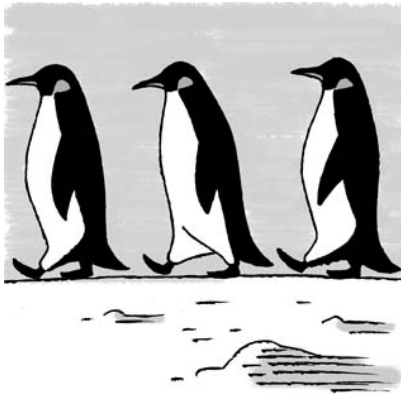
昨年、親会社が携帯ゲーム会社のDENNAに移行し、大きな話題を提供したのが、プロ野球球団「横浜DENNAベイスターズ」(以下ベイスターズ)です。神奈川県横浜市に本拠地を置く同球団は、四年連続でセントラルリーグの最下位に沈んでいました。この球団の新監督に就任したのが中畑清氏です。

中畑氏は駒沢大学卒業後、読売巨人軍に入団。引退後は巨人軍コーチを務め、アテネオリンピック日本代表では、体調を崩した長嶋茂雄監督の代行を務めました。氏の選手時代に付けられたニックネームが「絶好調男」です。どんなに苦しい状況でも、明るい笑顔と大きな声で周囲を鼓舞してきました。

監督就任会見では「四年連続最下位のチームを率いる心境は？」との質問に、「新しいベイスターズは明るくイキイキ元気のいいチームになる。それができそうな気がするんですよ。たとえ負けが込んでも、前向きな前傾姿勢で、次の日にまた頑張ろうというね。負けているのに何でこんなに元気がいいのか。不思議だなと思わせるチームにしていきたい」と答えています。

どのような組織でも、トップが明るくしていたなら、周囲も明るく前向きになるものです。社長が朝早くに出勤し、社員全員に対して元気な挨拶をしている会社は、多くが業績を伸ばしています。倫理法人会でも、会長が前を向き、周囲に明るい風を送っている会は、倫理普及も楽しんで取り組んでいます。

ベイスターズのように、戦力が思うように整わないチームであっても、「明るく」「熱く」「諦めず」をモットーに取り組むことで、チームカラーを変えようとしているのです。



## 「絶好調男」になろう！ 明朗は成功の源である

絵・わたなべじゅんじ

『万人幸福の策』第八条60ページには、「一人の明朗な心境は、その人の肉体健康の元であり、家庭健康の中心であり、事業健康の根拠である。うち沈んだ、暗い、よわよわしい心の持主は、きつと体が弱い。病弱の人が一人でもあると、その家庭は梅雨時のようにじめじめする。そうした家に住む人は心がにぶる。張りをなくし、気おくれする。決断力がにぶる。何をしてもうまく行かないのが当然である」とあります。

「明朗の心、一日も一分も曇らしてはならぬのは、人の心である。朝はほがらかに起き、昼はほがらかに働き、夜はほがらかに休む。昨日も明るく、今日も明るく、明日も明るい(中略)朗らかな人の心は、世のくもりを照らす光である。明朗は、万善のもとであり、健康の朝光である」とも強調しています。

状況が良いから明るい心を持つのは誰でもできます。しかし状況が悪いからこそ、「これが良い」「ここから良くなる」と笑顔を振りまき元気な声を出して、心を明るくするのです。

倫理法人会の平成二十四年度も、今月で前半が終わります。当初に掲げた目標数に対して、「うちの単会はもう目標達成できない」と諦めの声が聞こえてくる時期でもあります。そんな時だからこそ、会長自らが明るい心で周囲の笑顔の中心となりましょう。

明朗こそがすべての成功の源です。辛い状況だからこそ「明るく」し、苦しい環境だからこそ「熱く」なり、時間がないからこそ「諦めず」に、目標に向かって邁進しましょう。明るい心が達成の喜びを生み出しますので、まず会長自身が「絶好調男」となりましょう。